

子どものインテリア行為と母親の育児観に関する関係

住まいにおける子どものインテリア行為と母親の関わりに関する研究 その2
片山 勢津子*, 近藤 雅之**, 中村 孝之**

The Relationship between Mothers' View of Childcare and Interior Behaviors of Children

Interior Behaviors of Children and Influence of Their Mothers Empowerments Part 2

KATAYAMA Setsuko, KONDO Masayuki, NAKAMURA Takayuki

1. はじめに

子どものインテリア行為は、学習机や子ども部屋といった自分のテリトリーを示すものから始まると考えられる。前稿では、学童期のインテリア行為と母親の関わり方の実態を明らかにした上で、母親の関わり方がインテリア行為に一定の影響を与えていることを明らかにした。また、アンケート調査からは、片付け行為とインテリア行為に相関があることが伺えた。

本稿では、インテリア行為を子どもの生活行為の一つであると考え、母親の育児観が子どものインテリア行為にどのような影響を受けるのかを明らかにすることを試みる。具体的には、母親の育児観の類型化によって、母親の子との関わり方をより具体的にするとともに、子どものインテリア行為の実態からその影響について考察を試みる。

2. 方法

2.1 因子分析・クラスター分析

アンケート調査の生活意識の項目（表1）結果を元に、因子分析で12因子を抽出した。これらを解釈し、育児・家族観関連因子とインテリア関連因子に二分化した（表2）。インテリア関連因子は、母親のインテリアの志向を示すものであるが、本研究では母親の子との関わり方の影響を調べるため、あえて育児・家族観関連因子を用いて、クラスター分析を行った。

2.2 訪問調査

アンケート調査対象者（被験者591名）のうち訪問許可の得られた家庭（大阪、京都、兵庫、奈良）において実態調査を行った。対象は、母親の関わり方が強く影響すると思われる小学生のいる家庭（n=14、平成19年5-6月実施）である。追加調査として、同様のアンケート調査を3-4LDKの小学生のいる核家族の母親（京都府・長岡

京市、大阪府・大阪市、高槻市、吹田市）に行い（n=30、平成19年7月実施）、訪問許可の得られた家庭に同様の調査を行った（n=9、平成19年10月実施）。合計23件の家庭への調査項目は、子どものインテリア行為の他、片付け行為、子ども部屋・学習場所・遊び場所・就寝場所の状況。住まい方の変化と将来の計画等で、母親の考え方を質問した。なお、ヒアリングは約1時間であった。

表1 生活行為に関するアンケート調査質問項目

・できるだけ子どもと一緒にいたい	・インテリアや家具にはこだわる方だ
・子育ては私の生きがい	・インテリアの飾り付けや模様替えが得意な方だ
・子どもに甘い方だ	・自分が納得いくもの以外は部屋に置きたくない
・我が家は子ども中心に回っている	・家族の部屋も自分の納得がいくインテリアにしたい
・子どものすることに、すぐ口や手を出してしまう方だ	・家族を第一にした生活をしている
・家族を第一にした生活をしている	・価格が高くても、良質のものを購入する
・家事や子育ては苦手な方だ	・ものは修理して長く使う
・自分より子どもの意見や希望を尊重	・使わなくなったものを取っておく方だ
・子ども各自に部屋を与える方がよい	・新製品や子供服はリサイクル品を活用
・小さいうちから自分のことは自分でするように躾けている	・子どものものはなるべく新品を買う
・勝手に子ども部屋に入ったり、持ち物を触らないようにしている	・自宅に人を呼ぶのが好きな方だ
・子どものプライバシーを尊重している	・来客があれば、子どもに会わせる
・子育ても大事だが、自分の時間も大事にしている	・子どもの教育にお金を惜しまない方だ
・「母親」だけでない人生を送りたい	・できるだけ子どもにはお金をかけたい
・仕事や勉強・趣味を通じて、さらに自分の知識や能力を高めた	・我が家は父親が子育てに積極的な方だ
・住まいは常に整理整頓を心がけている	・我が家は何でも話し合える家族だ
	・子どものための家具は、成長に合わせて交換できるリース式が良い

表2 因子分析の結果

	固有率	寄与率	名称	
育児・家族観	第2因子	4.15679	4.6	子どもへの投資重視
	第3因子	1.45330	4.3	子どもより自分重視
	第4因子	1.35748	4.0	子どものプライバシー・自我尊重
	第5因子	1.25338	3.7	子育て生きがい
関連因子	第6因子	1.16264	3.4	仲よし家族
	第9因子	1.03470	3.0	子ども天下
	第12因子	0.77477	2.3	子どもに甘々
インテリア関連因子	第1因子	2.94444	8.7	インテリアこだわり・片付け上手
	第7因子	1.10948	3.3	リサイクル志向
	第8因子	1.03946	3.1	片付け下手
	第10因子	0.95165	2.8	社交派
第11因子	0.79390	2.3	新商品飛びつき	

表3 クラスターの特徴

CL	名称	割合	特徴
CL1	世話焼きママ	19.0%	子どもや教育にお金をかけることに積極的。すぐに子に手を出してしまうタイプ。子育てが生きがいである。
CL2	しつけママ	19.6%	子のプライバシーや自我に対する尊重意識が、小さいうちから顕著である。躾や教育に熱心である。
CL3	ファミリーママ	21.0%	子どもとの接点が緊密な暮らしをしている。家族仲良く、夫も子育てに協力的である。
CL4	おおらかママ	19.0%	子育ても大事だが自分の時間や自己実現も大事にする。子どもの自立を促すために躾に積極的。
CL5	シングルライクママ	20.0%	子育てより自分の生活や仕事、自己実現を優先する。経済的な余裕があり、子の教育にお金をかけることは厭わない。



CL1: 子ども部屋も含め母親が率先して子の作品を飾る



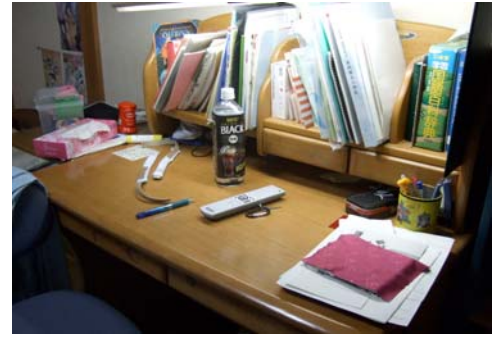
CL2: 子ども部屋は子に委ねて関わらない。LDに子どもの作品はほとんどない。



CL3: 親子一緒に作業する



CL4: 子ども部屋だけでなくLDも子の自由にさせる



CL5: 親は無関心で、子どもあまり興味がない様子

図1 インテリア行為の事例と特徴

3. 結果と考察

3.1 クラスター分析の結果¹

育児観による母親のタイプは、5つに分類できた(表3)。

3.2 訪問調査による考察

クラスター毎に子に対する接し方が異なり、子との距離と育児観の2軸で整理できる(図2)。住まい方やインテリア行為にも特徴が見られた。子との距離とは、自立の観点から子を離そうとするかしないかの違いである。

住まい方:子を離すタイプは、部屋の用途を設定して使用するのに対し、子との距離が近いタイプは、成長に応じて部屋の用途変更をする、あるいは部屋をフレキシブルに使用する。ただし、一時的に矛盾が生じる事例がみられた。

インテリア行為:最も明確なのは性差であった。男子よりも女子の方が行為を始める時期が早く、男子が学習机の周りの行為が多いのに対して、女子は高学年頃から部屋全体へと範囲が広がる。子どもの作品は、子との距離が近いCL1,3,4の場合、LD空間にも沢山見られるのに対して、距離を離すCL2,5は、あまり見られない。母親の関与の違いとして、母親が主導で関わる場合と無関心で関わらない場合や、子の自由にさせる場合と場所等を制限する場合がある。以上をまとめたのが図3である。なお、アンケート調査の結果、インテリア行為の頻度は、自由放任型CL4が多く無関心型CL5が少ないことが、確認できた。

4. まとめ

母親の生活感によるクラスター分析の結果、育児観から

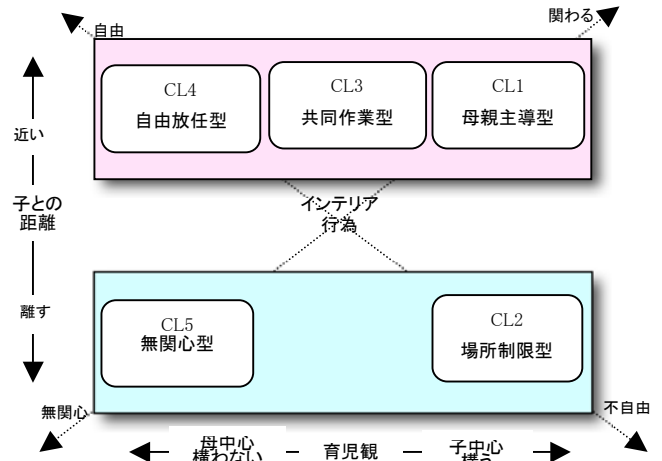


図2 母親の子との関わりと子どものインテリア行為の関係

5つに分類できた。インテリア行為は子の性差による違いが大きいが、育児観によってインテリア行為への関わり方が異なる。クラスターによって、①母親主導型、②場所制限型、③共同作業型、④自由放任型、⑤無関心型に分かれる。インテリア行為の頻度は自由放任型が多く、無関心型は少ない。また、あらかじめ部屋の用途を決める住まい方ではLD空間へのインテリア行為の出現が少ない。

(*京都女子大学・**積水ハウス)

¹ 子の居どころについては、次を参照(片山勢津子, 近藤雅之, 有川智子, 中村孝之: 住まいにおける子どもの居どころと母親の子育て観 その1, その2, その3, 日本建築学会大会, 2008)